

平成 27 年度 学校法人 三幸学園 仙台ビューティーアート専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 : 副校長 岸本拓也

学校関係者評価報告責任者 : 学校関係者評価委員会委員長 村松千秋

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として、「人を美しくすることで人を元気にし、日本を世界を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」の教育理念の下で、「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで社会に貢献する人材」、また、ビューティー分野の学校として、「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 本年度(27年度)に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1 重点施策振り返り

平成27年度は、三幸学園が目指す職業人像「誰かのために働く」を目指した人材育成を行う上で、「情熱あふれる教員」を基本軸に持ち、現場で必要とされる人材教育を行ってきた。

その結果、目標達成(国家試験の合格率向上、就職先の拡大、就職率100%)に向けた取り組み方と、方向性の明確化で、個の生徒の力を伸ばすことが出来た。

また、単に知識や技術を習得する授業に留まらず、社会人で必要とされる人材を育成する指導(あいさつ、社会の基本に忠実な指導)を行うことで、現場につながる授業を強化することができた。同時に、企業と連携した授業の展開や、生徒自らが主体的に考え動く授業の展開ができた。

他にも、技術力はもちろん、教員の指導内容の統一を図ることで、国家試験の合格率の向上や、退学者減少、精皆勤率の向上といった成果を出した。

2 学校関係者委員コメント

- ・明確な教育目標や計画のもと、国家試験の合格率の向上や、退学率の低減ができています。過去10年間の国家試験合格率の推移から見て、高い合格率を出す仕組みができた。
- ・若者の変化(精神面や基礎学力)で、今まで通りの教育が通用しなくなる。教員は今までの生徒との接し方にこだわらず、柔軟で個々に合わせた指導で授業をしてほしい。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

① 課題

- ・目指す業界では「自ら考え行動する」ことが求められる。この「自ら考え行動する」ことを日々の授業や就職指導において意識して指導していく必要がある。
- ・地域に根ざした業界の動向を把握し、就職現場がどのような技術・人材を求めているのかのニーズを、把握することが必要とされる。また、そのような情報を、授業と就職の指導を行う教員全体がより深く知っておく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・就職先となる美容院各方面へのニーズのヒアリングや、輩出した卒業生のその後の動向などを把握して専門学校教育の授業や就職指導に反映させる。
- ・学校の教育が、今の若者に合っているのか、また学校の教育の技術面、知識面、サービス接遇面、心構えの面などが、今の社会のニーズに合っているのかを把握していく。

③ 特記事項

- ・現場力を高める教育では、株式会社友美様（サロンの授業）、ガモウ株式会社様（教材納入、コンテストや講演会など美容業界の情報提供）、小林豊子きもの学院（着付けの授業）、セブンブリッジ様（サロンの授業）など企業との連携を昨年よりも強化して行った。
- ・産学連携・ボランティアの推進を行い、学校の授業が、どのように社会で繋がっているのかを知る機会を多く持つことができた。産学連携やボランティアの提供先としては、芸能事務所、映画撮影、テレビ撮影等でのメイクやヘア、アシスタントなどの専門技術の提供であったり、プロスポーツ会場や、大規模商業施設でのお客様サービスの模擬店舗運営などで、接客を学びつつ、メイク・ヘアアレンジなどの専門技術の提供ができた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・3年前と比べると就職で採用した生徒の質は年々良くなっている
- ・企業と連携した授業の中で、就職採用生と事前に関わることにより、生徒のキャラクターがわかるのは良い。
- ・コースによって違うが美容科よりトータルビューティー科は大人しい印象である。
- ・企業と連携した授業の中で、一部だが指示されたことを要領よく（適当に）終わらせようとする生徒が見られた。

(2) . 学校運営

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 課題

- ・教育業務を行う上で、職員室での運営機能の向上が求められる。事務的処理、会議運営、振り返り改善などをより高いレベルでシステム構築する必要がある。
- ・学校運営面ではコンプライアンス遵守の理解と実践、また生徒指導面ではハラスメント防止や生徒の多様化の理解などが求められている。

② 今後の改善方策

- ・業務のシステム化・マニュアル化、情報システム化による業務効率化を進める。
- ・部門内業務（検定試験、就職管理・実習管理、授業科目管理）などフローの再点検と、人員配置の見直しによる業務の効率化を図り、教育にかけける時間を増やしていく。

③ 特記事項

- ・年3回の全教職員参加の全体会議の実施による、運営方針の浸透や情報共有ができています。
- ・教員同士の授業交換や、実技授業を一人体制から2人体制に増やすなど教育の質の向上に努めた。
- ・ハラスメント規定の整備（アカデミックハラスメントなどの防止を図る）や勉強会を定期的実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ハラスメントにならないように生徒の特性を理解する必要がある
- ・現状として学校ではADHDの生徒がクラスに多数いると言われている。またその場合、保護者もその要素を持っているケースが多いため、生徒・保護者への指導や対応がますます難しくなっている。
その場合、対処として①先生は生徒との約束を守る、②先生は生徒へ上から物事を言わないなど、生徒に合わせた指導が必要である。

(3) . 教育活動

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

- ・現場により近い環境を整え、やりがい、達成感、厳しさ、行動力など現場力を身に付ける必要がある。
- ・生徒の授業アンケートや卒業生アンケートは前年度から向上したが、それに満足することなく個々の先生が自分の授業の振り返りと改善をしていかなければならない。

② 今後の改善方策

- ・授業アンケートや実習先アンケート、卒業生アンケートの結果に対し、重点項目を絞り、新年度の改善項目を明確にしよりよい教育に取り組む。
- ・実習先の選定は、生徒の希望ベースで選定している。今後は、より学校教育に理解のある企業や教育効果が期待できる企業を増やし、そのような企業での現場実習を増やしていく。また実習先で注意をうけたことを、先生間で情報交換しておく。
- ・コンテストを通して技術力や人間性も高め、個の力を引き出す教育を目指す。
- ・業界の変化に伴い、現場により近い知識や技術が提供できる様、常に最新のシラバスや授業内容を目指す。

③ 特記事項

- ・ 入学者に対する性格診断テストの実施などで、入学後の生徒状況と、性格診断結果とを、照らし合わせ生徒指導を行っている。これにより、退学防止など生徒指導の効果を期待する。
- ・ 平成 27 年度には、多数の企業の皆様に授業指導や就職指導に協力をいただいた。
J's 様(就職指導、モチベーションアップのための講演)、SHIDAX 様(エステ業界での求められる人材とは)、株式会社マイナビ様(就職指導)、的場亮様(社会で必要な考え方の講座)ほか生徒が学ぶ機会多数

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 実習受け入れに関して、サロン側としては就職希望者でない実習生でも特に問題視はしていない。
- ・ SNSについては学生のうちから使いこなせるのはプラス(継続性などもこれによって判断できる)である。但し誹謗中傷は書かない方がよい。SNS の危険性ばかりを教えるのではなく、SNS のメリットも伝えていかなければならない。

(4) . 学修成果

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・ 就職先の情報を教員も十分に把握し、生徒への就職指導ができるよう情報収集や情報共有が必要である。
- ・ 学率低減のための、下記のような生徒の生活面や心理面での指導・サポートが必要である。
 - ・ 精神的に弱い生徒への指導やサポート(強く叱ると精神的に落ち込む、集団行動ができない)
 - ・ 学力が著しく低い生徒への指導やサポート(会話や文章の能力が低い)
- ・ 業界の現場との差が生じないよう、社会の考えを取り入れた学生指導を日々取組み、離職率を減少に繋げる。

② 今後の改善方策

- ・ 就職先が求める人材を聞いたうえで、合う生徒のマッチング(生徒への求人提案)を行う
- ・ 生徒には、社会の厳しさや人間関係のたいせつさを伝えていく。

③ 特記事項

- ・ 卒業生の WEB サイトの開設や、卒業生向け FACEBOOK で、学校が卒業生へ求人や学校情報を発信する。
- ・ 新しい担任には、副担任を設置しきめ細かい生徒指導を行う体制を敷いている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 生徒へ厳しく指導する場合は怒る人とフォローする人を分け、必ずフォローを入れる
- ・ 生徒との面談時間は長くやればいいわけではない。(短く、わかりやすく、怒られてる理由をしっかりと説明する、人前では怒らない)長いのはNGである。

(5) . 学生支援

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

- ・学生の相談にのる体制はとれているが、生活面や経済面での具体的な支援体制は十分と言えない。
- ・保護者やの確認、報告、相談などの連携は取れている。しかし、遠方の保護者に対して、面談や緊急を要する際の対応や依頼が十分でない場合がある。

② 今後の改善方策

- ・入学前、学期ごとなどには、保護者様への定期連絡（入学後の電話がけ、成績発送など）を行う。
- ・生徒が、自身の悩みなどを相談しやすい雰囲気づくり、また担任に伝えやすい環境をつくる。

③ 特記事項

- ・入学生徒の性格診断（スカウター）の実施と、その性格診断の事前分析による指導。
- ・心理カウンセラーを設置しており、毎年延べ10人程の生徒が利用している
- ・課外活動にて、産学連携やボランティアの活動を、積極的に行っている。
- ・高等学校の総合学習や進路学習へは、依頼を受けた場合は積極的に協力している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・目標を持たせるためには自信をつけさせる。目標までが長いとなので目標を細分化して持たせ、成功体験を積みせる、こちら側が目標設定をしてあげる
- ・学生寮とは保護者や学校と連携を取り続けていく。（仙台は他の地域に比べて退寮率が低い、比較的大人しい学生が多いので問題も少ない）
- ・学校、寮での生活に関して何か問題がある場合、相談にのる体制は取れているが実際はまだ学生自ら相談にくるなどは少なく、連携なども不十分な部分がある
- ・遠方の保護者の場合はその内容によって段階を踏まえて面談

(6) . 教育環境

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・常に質の高い教育環境、体制の整備が求められる

② 今後の改善方策

- ・スマホやタブレットを使える環境を整え、スクリーンに映して授業する環境を増やしている。
- ・インターネットや動画を用いた授業ができる環境の設置された教室を増やしていく。

③ 特記事項

- ・海外研修（ロサンゼルス研修、バリ島エステ研修）を任意で実施している。
- ・27年度は教員間による防災マニュアルの読み合わせ、学内においては避難訓練など年1回行った。
- ・水回りなど、使用頻度の多いフロアなどは特に改善を行ってきた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・更に質の高い教育環境、体制の整備が必要

(7) . 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

A0 入試に対する高等学校の理解不足（宮城県の高校や岩手県の高校など、高校によっては、A0 による早期進路決定を推進しない学校がある。）昨年よりも A0 入試を禁止や制限する学校が増えている。

② 今後の改善方策

A0 入試についてのメリットを高校進路部へ説明を継続的に行う。（早期進路検討のメリット、A0 入試による特待生受験の機会提供）

③ 特記事項

- ・業界のニーズに合わせた技術や資格取得を目指す専門のコースを27年度より1コース増やし（ブライダルコース）た。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・次年度（29年度）にむけ多くのオープンキャンパス参加者がいることは、美容業界の活性化のためによいことである。
- ・コース展開により学生にとってはより専門的な勉強ができるので良い
- ・高校側へのAOの理解度を深めるのが必要である。

(8) . 財務

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える。

② 今後の改善方策

- ・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく。
- ・規模の増加に対応するための人材の育成をしていく。

③ 特記事項

- ・中長期的な財務基盤の安定について
 - ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。
- ・予算および収支計画の有効性、妥当性について
 - ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。
 - ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している。
 - ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。
- ・会計監査について
 - ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。
 - ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。

・財務情報公開について

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9) . 法令等の遵守

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

- ・今後も継続した法令遵守の推進が求められる。

② 今後の改善方策

- ・会議や掲示物等を通じて、すべての職員の法令遵守に対する啓蒙を図る。
- ・個人情報保護法など、毎年継続し繰り返し法令の正しい知識を教職員に伝えていく。

③ 特記事項

- ・全体会議、担任会議にて、定期的にコンプライアンス研修や、女性が働きやすい職場を作るための研修、若者の学力低下に対応するための研修などを行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・メンバーへのコンプライアンス浸透、継続が必要

(10) . 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

- ・在校生の活動（教育）、学校 PR 活動（広報）面での社会貢献や地域貢献は積極的である。しかし地域に対する公開講座、教育訓練などは積極性が求められるので、今後サロンの授業にて、近隣の地域の皆様を学校にお招きするような機会を作っていく。

② 今後の改善方策

- ・上記のサロンワークの積極的実施。

③ 特記事項

- ・主な産学連携・ボランティア・社会貢献・地域貢献の具体的内容

大規模商業施設への技術提供・イベント協力

プロスポーツチーム、スポーツ関係への生徒協力・ファンサービス・技術提供

被災地支援活動への協力 乳がん啓発活動等 生徒の活動支援・技術提供

近隣への学校開放 エステ、ネイル、メイクの模擬サロン

テレビや雑誌、映画など撮影のためのヘアメイク等に生徒による技術提供を行う

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・コンテストやショーなどのボランティアでお手伝いの場を、美容ディーラーの立場から創出していきたい。
- ・サロンワークなどで近隣への地域貢献や保護者への成果報告は大切であるのでぜひやってほしい。

(11) . 国際交流 (必要に応じて)

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2	1
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・留学生の受け入れが28年入学生で出てくる。今後も対応できる仕組みを作っておく。

② 今後の改善方策

- ・三幸学園の本部が策定した留学生受け入れのマニュアルに沿った受入を行う。

③ 特記事項

- ・留学生入試マニュアルを整備済みである。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学生寮でも近年、留学生の利用者は増えている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・挨拶やエレベーターの乗り方など社会に出てから役立つルールやマナーは美容師になってからあらためて大事だと気付いたので今後も継続してほしい

- ・様々な生徒がいるけど、学生時代に目立つ生徒は、将来良いほうに突き抜ける可能性がある、のびしろがある。そのような子は学生時代にいろいろ心配であっても、将来は面倒見が良く、できない子の気持ちがわかったり、打たれ強い面があるので悪いことではない。あきらめずに接するのが大事である。

- ・今の若者は、スマホや娯楽の影響で、集中力が削がれる中で生活しているのでその中で、どう自己表現してか周りの環境に対応する力が大事である。

- ・技術向上は人間形成にもつながる、喜ばせたい人は誰なのかを明確にさせ、技術向上から人間形成につながってほしい。社会に出て、新人教育はサロンのためにするのではなく、お客さんのためにしていることを分かってほしい。
- ・学生寮運営の立場からは、現場で働いてる寮長さんや寮母さんにも、学校の様子、行事の様子を知ってもらう取り組みをしている
- ・教員の授業や対応の質をあげるためにも、アカデミックハラスメントへの意識や実際にアンケートを行うことで、より一層取り組み方や見方が変わることが出来た。
- ・仙台で活躍する美容室の方と肩を並べ学生作品を出品（東北で活躍する美容師を発信する機関ハイカラ）し、授業や技術上達を意識した取り組みが校内においても行えた。